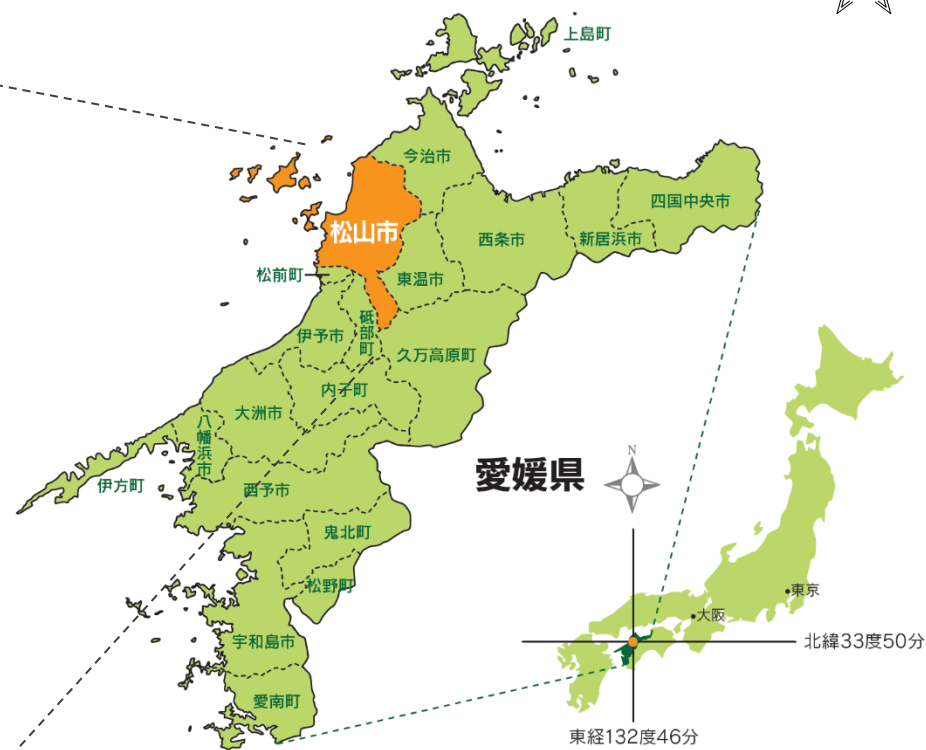


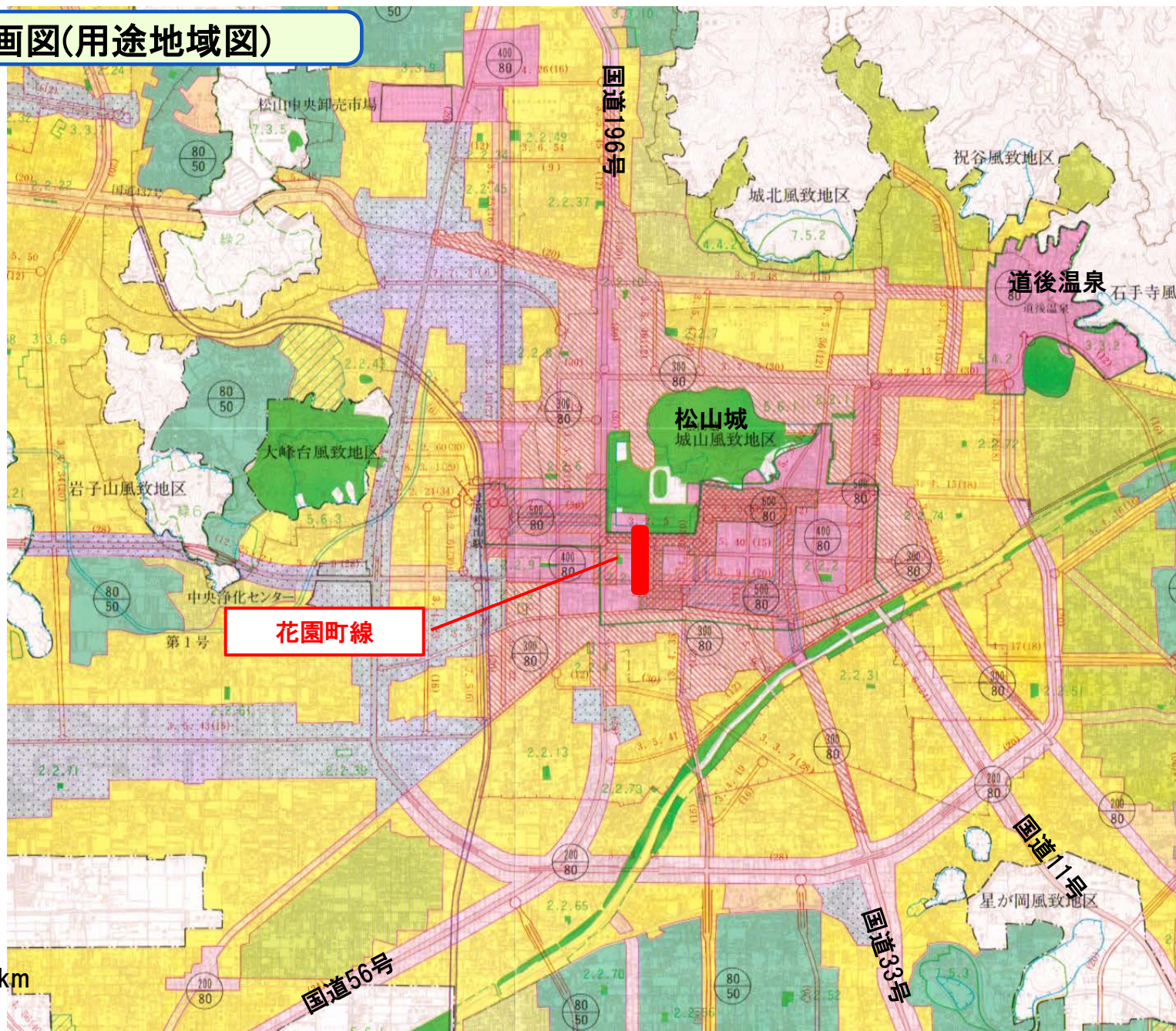
事業概要

ふりがな 応募者名	まつやまし 松山市
ふりがな 事業の名称	まつやまこういき としけいかくどうろ はなぞのまちせん せいびじぎょう 松山広域都市計画道路 花園町線整備事業
ふりがな 事業主体	まつやまし 松山市
ふりがな 実施都市名	えひめけんまつやまし 愛媛県松山市
事業概要 (400字以内)	花園町線は、交通拠点である「伊予鉄松山市駅」と国道56号を介して松山空港やJR松山駅、松山港等を結ぶ幹線街路で、全国に現存する天守12のうちの1つである松山城を有する「城山公園」を結ぶ街路である。 今回、未整備区間の250mについて、無電柱化及び道路空間再配分を行ったものである。 具体的には、総幅員はそのまま、自動車通行機能(2車線)は確保しつつ、良好な景観を阻害していた電線類を地中化するとともに、自転車道の新設や歩行空間の拡大を行う、道路空間の再配分のほか、松山城などの史跡景観へ続くシンボルロードに相応しい、自然石舗装や鋳鉄製の照明灯、また、県産材を用いたウッドデッキやベンチを備えるなどの景観整備を実施している。また沿線には、松山が生んだ俳人「正岡子規」の生誕地があるため、植樹帯には子規ゆかりの草花を植えるなど、地域資源を生かした街路整備を進めている。
事業規模	○事業延長:250m ○幅員:40m ○事業費:12.5億円 ○事業期間:H23~29
事業の目的	本路線では、隣接する城山公園(国指定史跡)にあった国立がんセンターやスポーツ施設の郊外移転等により、通行量の減少や空き店舗の増加に加え、歩道に並ぶ大量の放置自転車など、商業活性化や安全・景観面での課題を抱えていた。また、自動車交通は、伊予鉄松山市駅を利用するための交通はあるものの、ピーク時の約半分まで減少し2車線で処理できる状態となっていた。このような中、安全に歩いて、健康で、生き生きと暮らせる、そして賑わいを生み出す空間の創出を目的に、必要な自動車交通の通行を阻害することなく、車優先から歩行者や自転車といった遅い交通に配慮した空間への改築整備を行ったものである。
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	整備後の交通量調査で、歩行者は約2倍に増加したほか、新たに整備した自転車道の利用で、安全性や快適性が大きく高まった。また、整備前に約370台あった放置自転車は殆どなくなった。 さらに、過去10年間減少を続けていた地価が上昇(1.2%)に転じるなど、地域経済の活性化にも効果があった。
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	整備に際しては、地元説明会に加え、地権者やテナントを戸別訪問するなど、対話を重ねながら検討を進めた。加えて、有識者、地元代表者、交通事業者、行政などが参画する懇談会や、地域住民や学生、公募者などによるワークショップを開催し、空間の活用方法についての意見交換を行った。 模型やミクロ交通流シミュレーションなどの様々なツールの活用や、社会実験による効果検証を経て、最終的な合意形成を図った。



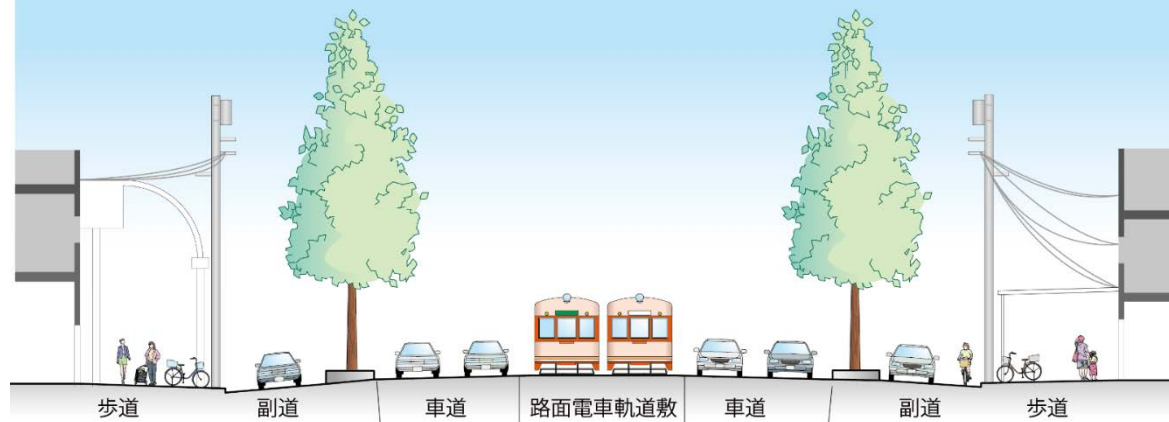
第31回全国街路事業コンクール応募資料

都市計画図(用途地域図)

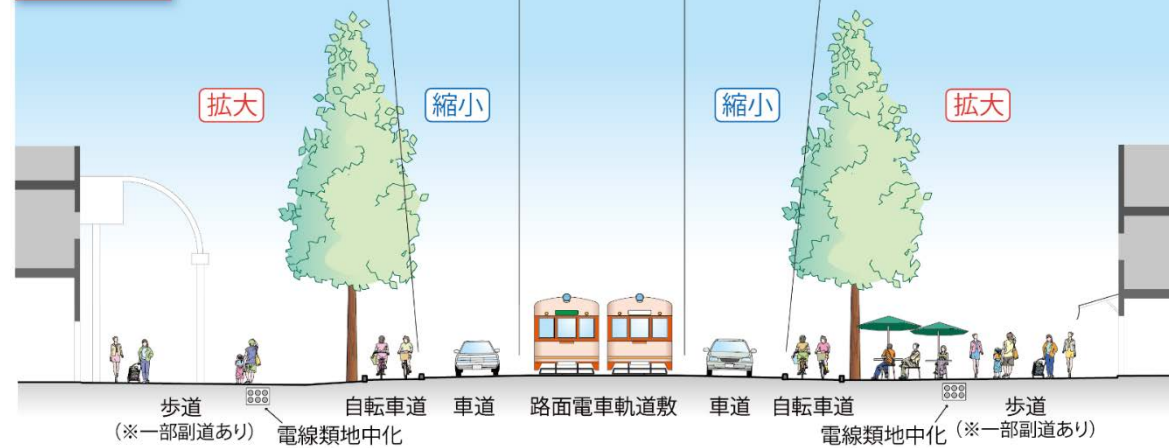


断面図

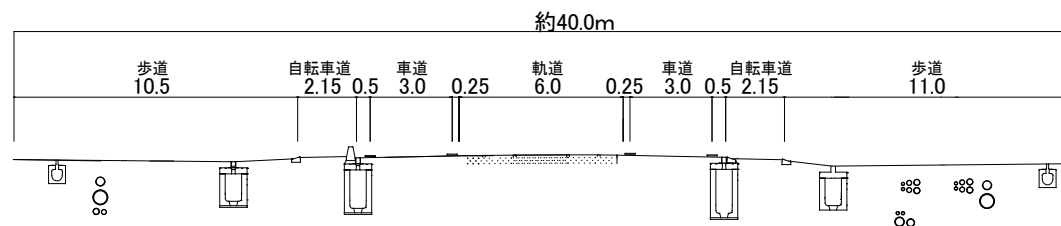
整備前



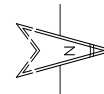
整備後



整備後



路線全体の進捗状況



都市計画道路3.1.1花園町線 総延長L=310m W=40m

未施行区間 L=60m
2023年完成予定

今回応募区間 L=250m H29年度完成
H29年9月23日供用開始(改築)

都市公園5-6-1城山公園
(松山城)

凡例

- 今回応募区間
- 施行済区間(完成区間)
- 未施行区間(調査・計画区間)
- 既設道路

伊予鉄道松山市駅

3.3.9千舟町空港線

3.5.40三番町線

3.2.5中央循環線
(国道56号)

県警本部

3.4.20南堀端千舟町線

松山市役所

事業前写真



- ・マイカー優先の道路幅員構成
- ・自動車の減少により空間が有効に使われていない

平成23年3月撮影



- ・暗い歩行環境
- ・アーケードの老朽化
- ・林立する電柱や放置自転車による景観の悪化

平成23年3月撮影



- ・放置自転車やのぼり旗など路上占拠物によって歩道が狭くなっている

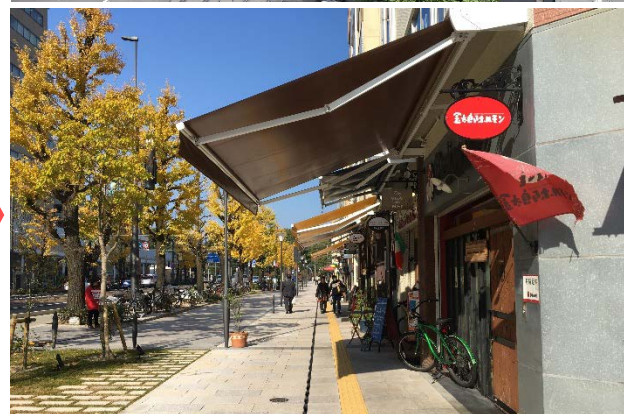
平成23年3月撮影

事業後写真



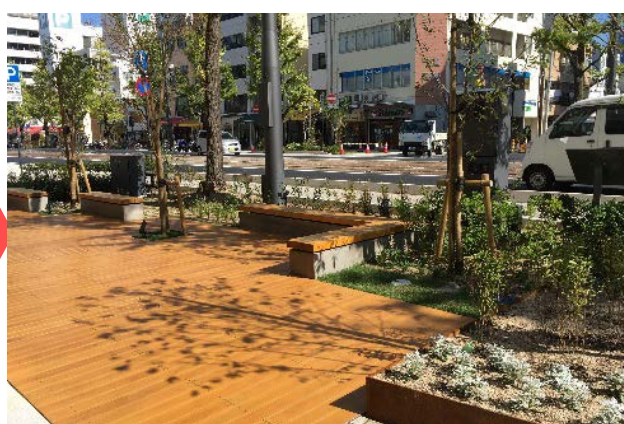
- ・歩行者や自転車といった「遅い交通」に配慮した空間へ再編
- ・自転車道の新設

平成29年10月撮影



- ・無電柱化による良好な景観の創出
- ・道路と一体となった建物側の景観(ファサード)整備

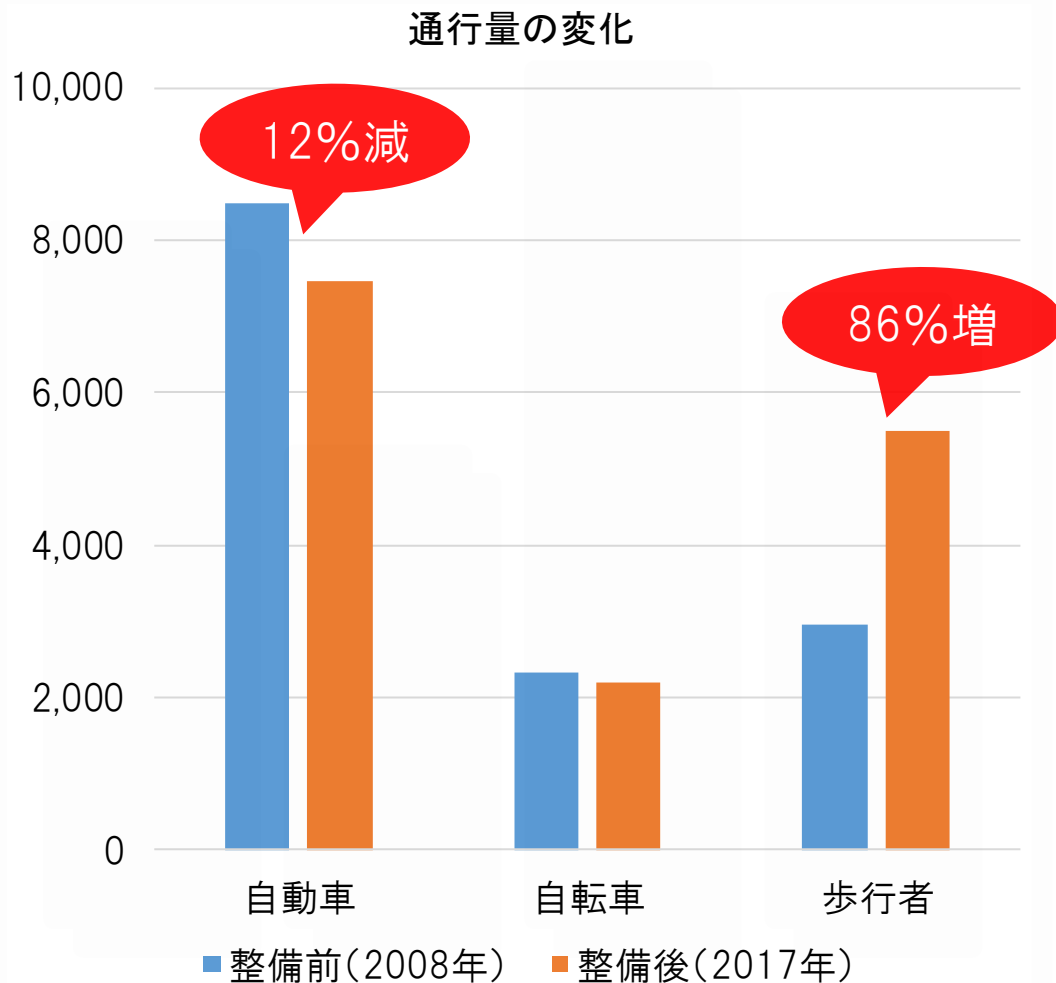
平成29年10月撮影



- ・ウッドデッキのある開放的な空間
- ・ベンチや子規ゆかりの植栽設置により「憩い」の空間を創出

平成29年10月撮影

花園町線の事業効果アピール資料1



効果1

歩行者が安心して通行できる空間へトリニューアル
自動車の渋滞も発生していない



効果2

毎月1回地元主催によるマルシェイベントが誕生
毎回6~8,000人が来場(主催者調べ)
家族連れなど、新たな来街需要を誘発

花園町線の事業効果アピール資料2



自然素材の使用
(石・鉄・木など本物の素材を使用)



建物・道路が一体となった景観の形成
(道路整備に合わせ地元主体で外壁や看板・テントのデザインを統一)



正岡子規生誕地としての歴史・文化を感じる空間創出
(俳句で詠んだ草花の植栽、子規の直筆を冠した照明柱)



全国有数の自転車利用都市であることを生かした街路改築
(車道だった部分を、自転車道や路上駐輪場に再細分)

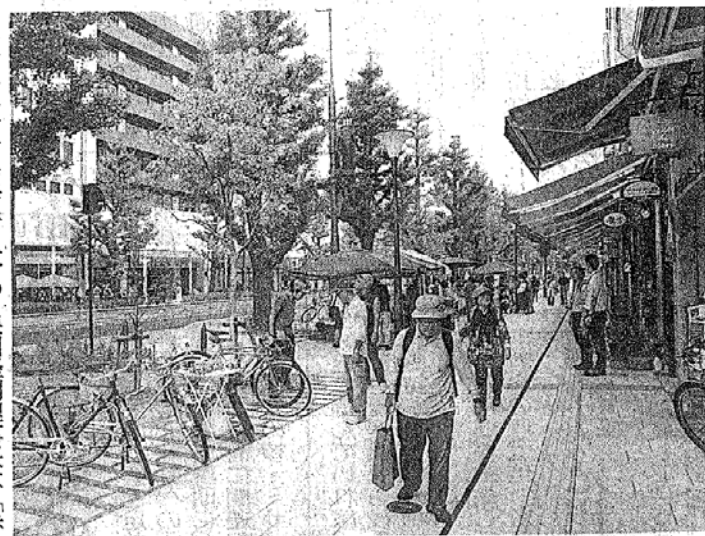
歩いて爽快 県都のオアシス

松山市中心部の伊予鉄道松山市駅と堀之内を結ぶ花園町通り(長さ2550m、幅40m)が23日、リニューアルした。拡充した歩道では商店街などによるマルシェが開催され、多くの市民が緑あふれる新たな街並みを満喫していた。

事業は、東側商店街のアーケード老朽化や通行車両の減少などを受け、2011年度から実施。車道を片側1車線にする一方、歩道は片側最大10mに拡幅し、自転車道も新設した。東側商店街は建物前面の景観をそろえ、正岡子規生誕地跡には俳句ポストを設置し、子規が詠んだ草花を植栽。30日開幕の愛媛国体前の完成を目指していた。総事業費は約12億5千万円という。

生誕地跡での記念式典で野志克仁市長は「良い街を将来世代に受け継いでいきたい」と述べ、テープカットで完成を祝った。

松山市駅一堀之内 花園町通り 装い新た



歩道が拡幅されるなどリニューアルした花園町通り
—23日午前、松山市花園町—

県内の旬の農産物や加工品などが並ぶ「お城下マルシェ at 花園」が19日、松山市の花園町通りであった。31店が軒を連ね、家族連れや買い物客でにぎわった。

「EAT・MEET・SHARE (食べて、出会う、共有する)」をコンセプトに花園まちづくりプロジェクト協議会が主催。

会場には県内の自然栽培米で作ったおにぎりや生鮮野菜、雑貨がずらり並んだ。

まちづくりの担い手を育成する「松山アーバンデザインスクール」の受講生らのグループも出店し、市内の生産者が作ったミカンの袋詰めや枝から実を「収穫」できる体験コーナーを設けた。参加した子どもたちは、はみなどをつくる実行委員が近くの「みんなのひろば」で今年3月に開始。花園町通りのリニューアルを機に9月から場所を移して月1回開いている。(大津貴圭)

食や雑貨求めそぞろ歩き 新装の松山・花園町「お城下マルシェ」

加した子どもたちは、はみなどをつくる実行委員が近くの「みんなのひろば」で今年3月に開始。花園町通りのリニューアルを機に9月から場所を移して月1回開いている。(大津貴圭)



家族連れや買い物客らでにぎわった
「お城下マルシェ at 花園」

平成29年9月24日 愛媛新聞

平成29年11月20日 愛媛新聞

2018 アジア都市景観賞「松山城周辺地区」選出

幸せな生活の環境創出で成果を挙げた都市に贈られる2018年アジア都市景観賞に3日、松山市の「松山城周辺地区」が選ばれた。市によると、城の眺望や周辺道路の景観形成などが評価された。

賞はアジアの都市を対象に、公益財団法人福岡アジア都市研究所（福岡市）などが主催。8年間で15カ国・地域の94団体を表彰しており、市内では16年に道後温泉周辺地区が選ばれている。市によると「松山城」では、周辺の花園町通りや一番町大街道口などで無電柱化などの景観づくりに取り組み、俳句甲子園など多彩なイベントを展開していることも紹介した。

平成30年8月4日愛媛新聞

松山・花園市道整備 全建賞

空間再配分で沿道活性化



全建賞を受賞した松山市の「市道花園町線無電柱化・道路空間再配分事業」＝21日午後

全日本建設技術協会（東京）が優れた建設事業に贈る2017年度全建賞に、松山市花園町の「市道花園町線無電柱化・道路空間再配分事業」が選ばれた。協会によると、17年度は国や地方自治体など317事業が応募し、81事業が選ばれた。同市の受賞は11年度の「松山港海岸和気地区整備事業」および和気地区環境整備事業に続き2回目。

市によると花園町では17年度、総事業費約12億5千万円をかけ、電線類地中化、片側2車線の1車線化、地元商店街の建物前面整備補助などを実施。行政と地元が連携し、道路空間再構築を実施した点や整備をきっかけに沿道で継続的なイベントが実施されている点などが評価された。市道路建設課は「7年間の地元との取り組みが評価されつれい」とし「きれいな道をこれからも使ってもらえたら」と話した。

平成30年5月22日愛媛新聞

飛鳥乃湯泉・花園町通り・移動する建築

松山の3件グッドデザイン賞

松山市は3日、同市道後湯之町の道後温泉別荘飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）「写真」と花園町通り、両者のにぎわいつくりを目指し松山アーバンデザインセンターが取り組んだ「移動する建築」の計3件が、2018年度グッドデザイン賞（日本デザイン振興会主催）を受賞したと発表した。

市によると、17年12月にオープンした飛鳥乃湯泉は、飛鳥時代を思わせる外観や愛媛の伝統工芸品を取り入れていることに加え、中庭で公共空間をつくり出したことが評価された。また、車道を片側1車線化し自転車道を整備するなどした花園町通りは、計画の大胆さや、周辺住民と協議を重ね実現させた点などが高く評価されたという。

飛鳥乃湯泉と花園町通りの新たな楽ししみ方としてセンターがアイデアを募った「まちを旅する4つの屋台」と「街の中の雲」は「移動する建築」として受賞。街の中の雲は「美しい動きに引きつけられ、何か面白いことが街で起こり始めたぞ」という感覚を想起させるデザイン」などと評価された。

（山本茜）

平成30年10月4日愛媛新聞

